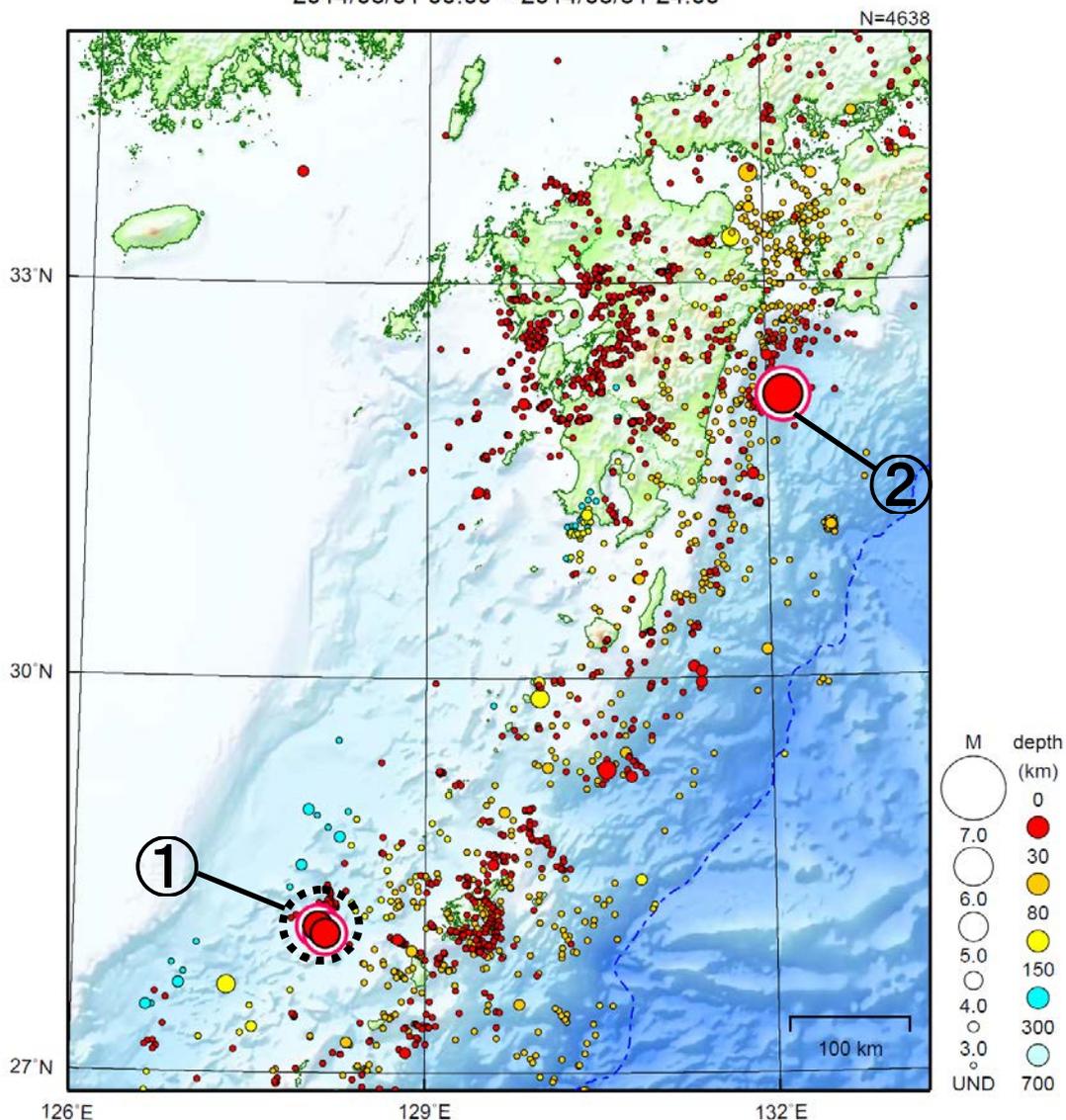


九州地方

2014/08/01 00:00 ~ 2014/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 7月26日から奄美大島北西沖（奄美大島の西約100km）で地震活動が活発となり、8月31日までに震度1以上を観測する地震が10回発生した。このうち最大規模の地震は、8月3日に発生したM5.6の地震（最大震度3）である。
- ② 8月29日に日向灘でM6.0の地震（最大震度4）が発生した。

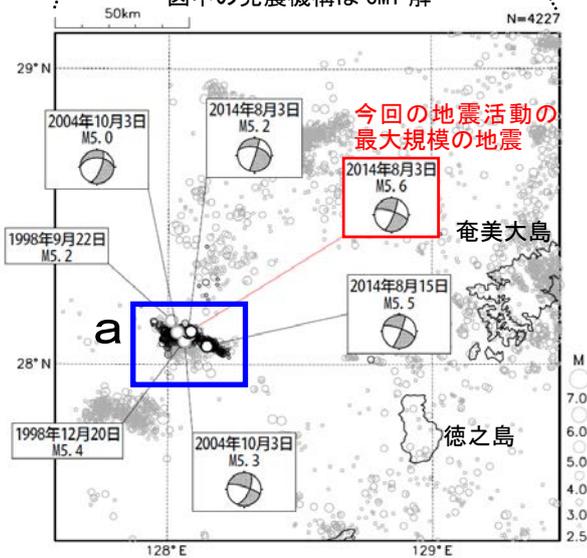
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

奄美大島北西沖の地震活動 (奄美大島の西約 100km の地震活動)



図中の細線は、水深 1000m を示す。

震央分布図
(1994 年 10 月 1 日～2014 年 8 月 31 日
深さ 0～40km, $M \geq 2.5$)
2014 年 7 月 26 日以降の地震を濃く表示
図中の発震機構は CMT 解



震央分布図
(1923 年 1 月 1 日～2014 年 8 月 31 日、
深さ 0～80km, $M \geq 5.5$)



今回の地震活動の位置

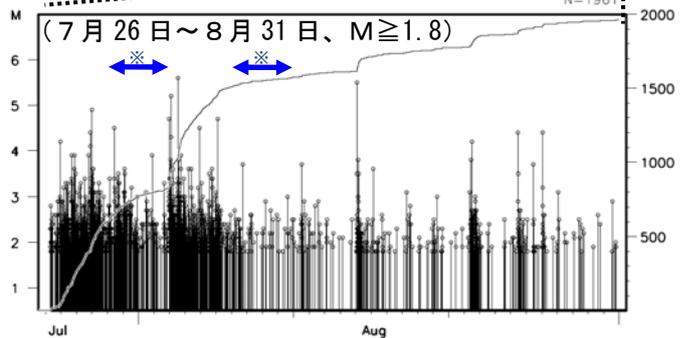
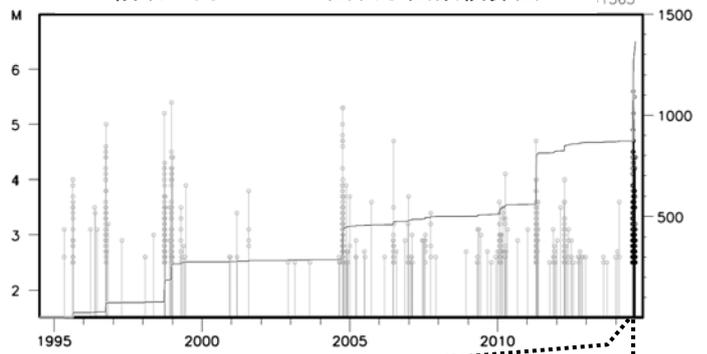
2014年7月26日07時頃から、奄美大島北西沖(奄美大島の西約100km)で地震活動が活発となり、8月末までに震度1以上を観測した地震が10回(震度3:2回、震度2:3回、震度1:5回)発生した。この地震活動は、陸のプレート内で発生した。

このうち最大規模の地震は、8月3日13時06分に発生したM5.6の地震(最大震度3)である。また、8月15日02時09分には、M5.5の地震(最大震度3)が発生した。これらの地震は、発震機構(CMT解)がいずれも北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震活動は、次第に低下している。

1994年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動域付近(領域a)では、数年に一度M5クラスを最大とするまとまった活動がある。

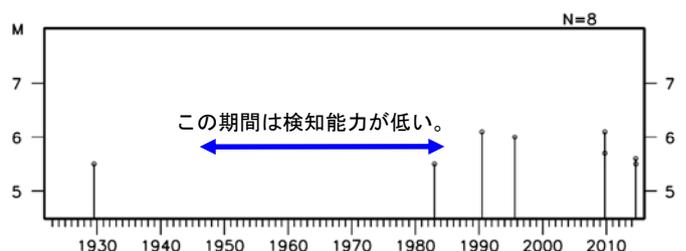
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震活動域周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が3回発生している。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



※7月30日から8月2日及び8月6日から9日にかけて台風の影響で小さい地震の検知する能力が低下している。

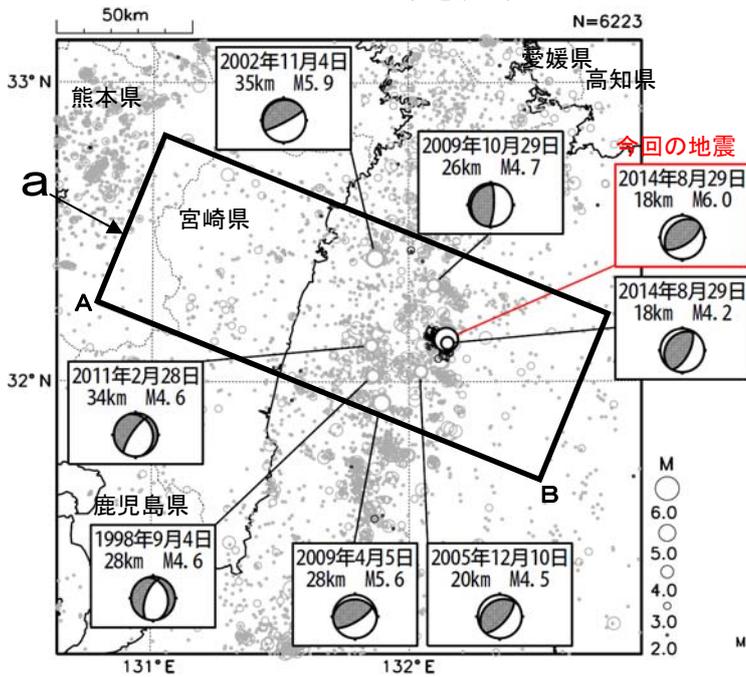
領域 b 内の M-T 図



8月29日 日向灘の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2014年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

2014年8月以降の地震を濃く表示

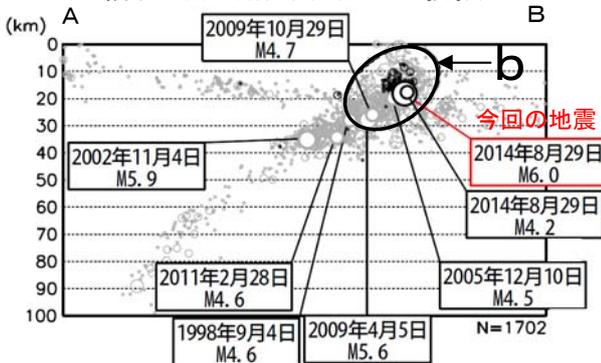


2014年8月29日04時14分に日向灘の深さ18kmで $M 6.0$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。その後、震度1以上を観測した余震が7回発生した (8月末現在)。余震活動は低下している。なお、今回の地震の震源とほぼ同じ場所で、同日01時30分に $M 4.2$ の地震 (深さ18km、最大震度2) が発生していた。

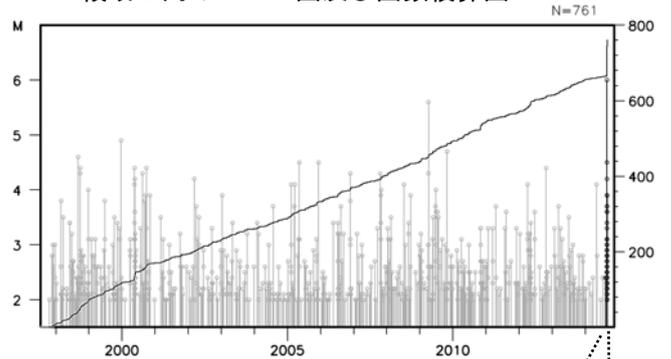
1997年10月以降の活動をみると、今回の震源付近 (領域b) は、 $M 4.0$ 以上の地震がしばしば発生するなど地震活動が活発な領域である。

1923年1月以降の活動をみると今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 6.0$ 以上の地震が数年から十数年間隔で発生している。最近では1996年10月19日に $M 6.9$ の地震 (最大震度5弱)、同年12月3日に $M 6.7$ の地震 (最大震度5弱) が発生し、ともに最大で十数センチの津波を観測している。

領域a内の断面図 (A-B投影)

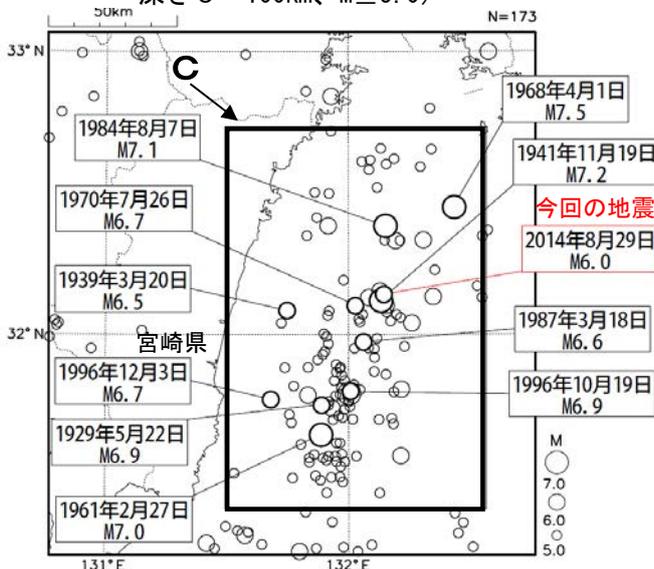


領域b内のM-T図及び回数積算図

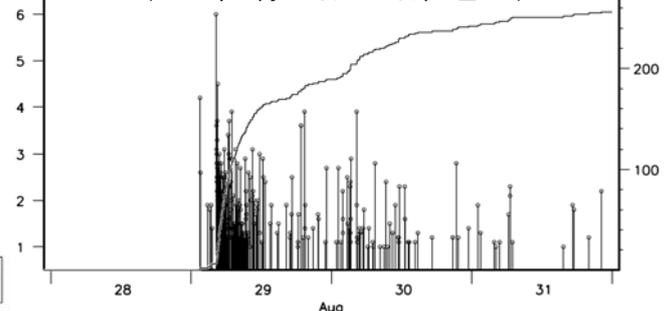


震央分布図

(1923年1月1日～2014年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



(2014年8月28日～31日、 $M \geq 1.0$)



領域c内のM-T図

